

## 鳥のさえずりは聞こえるかな？

金子 美幸（山武市）

日 時：2018年5月6日（日）10：30～12：00 天気：晴れ

参加者：19名（大人15名、子ども4名）

担当指導員：芳我めぐみ 金子美幸

ゴールデンウィークの最終日となったこの日は、明日からの通勤通学を考えてか参加者はいつもより少なめ。テーマの鳥の声を聞くには丁度良い人数、お天気も良くこれで鳥がさえずってくれればいいのだが。

挨拶と諸注意のあと、観察コースを紹介する。入口から杉林を通り、めじろんば→坂を登り、旧ヤマユリ広場→下ノ畑→階段を下り田んぼへ。列が長くなり話が全体に届かなかったり見られなかったりすることがないように皆で観察したり聞いたりしましょうねと話し出発した。

コナラの実生がひとかたまり生えていて苗畑のような様子や林床のmamシグサなどを観察してめじろんばに到着した。

ここで全員に耳をすませ「音」に集中してもらった。指導員の声を合図に目を閉じ「聞き耳」に集中すると一分間はかなり長く感じる。ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、コゲラなど鳥の声と、カエルの声が田んぼの方向から聞こえてくる。シジュウカラ、ヤマガラはさえずりらしい声だ。聞こえた声や音をみんなで確認し声の主は実物大写真で紹介した。田んぼから聞こえるのはシュレーゲルアオガエルの声。まるで演出したように目の前の杉の幹、見上げる位置でのんびりとお昼寝中！これには参加者の皆さん大喜びだ。

そこから坂を登りヤマユリ広場の名残が感じられる場所で二回目の「聞き耳」。ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、飛行機の音も聞こえた。ハシブトガラスの決め手は「カァカァ」の声。ハシボソとの相違点をこちらも写真を見せて説明した。ハシブトガラスは元々林の鳥だ。木の上から下の餌を探す習性を活かして都会に進出して勢力を拡大していることなどを話した。

下ノ畑で三回目の「聞き耳」。ハシブトガラスの他にウグイスが遠くで一声ホーホケキョ。下の方からシュレーゲルアオガエルの合唱がよく聞こえた。三回の「聞き耳」で聞こえた鳥の種は少なかった。大草の鳥の調査では4-5月に21種観察されていたので決して鳥がいないということではない。鳥が活動する朝早くならもっと多種の鳥の声を聞くことが出来るのではないかなと思う。さえずりの声が聞こえないのはそろそろ抱卵している鳥もいる時期なのではないか。見上げる木は柔らかい美味しそうな葉っぱをたくさん付けている。その葉を食べる幼虫もたくさん発生するだろう。ヒナを育てるベストシーズンになってきている。自然界の仕組みはうまく出来ているといつも思う。下ノ畑にはノウサギの糞や食痕が見られる。皆で糞を探しだしたのでノウサギがいることが実感してもらえよかった。

下の田んぼに下りまとめをしている時、カルガモのペア、セグロセキレイ、ツバメが姿を見せた。キジの声も聞かれた。サシバ、キビタキは残念ながら声も姿も確認できなかった。参加者から「優雅な時間を過ごせた」



「また来たい」との声をいただいた。